

第18回「文芸思潮」エッセイ賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第18回「文芸思潮」エッセイ賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国から総数一七三編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る三月末日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

北海道

◎「人生に楽なし、でも楽しみ有り在り」 山田恵津子

◎「コスミック・キャンデーズ」 小林宏子

◎「北緯5度の島の原爆人形劇」 高田ひとみ

◎「お菓子の入った、赤い長ぐつ」 配島強子

◎「マドンナはマドンナ」 坪田節子

◎「机の中の弁当」 青地久恵

◎「見えないものに右往左往」 草木 葉

◎「レムとノンレムからの解放」 柴田節子

◎「たたむ」 中村郁恵

◎「弁当終了」 斉藤はな絵

青森県

◎「政治家がいなくなる日」 松橋倫久

◎「タラポに導かれて」 金田一淳

宮城県

◎「日々是好日」 吉田宏子

福島県

◎「里山便り」 鶴賀イチ

◎「過去と現在を行き来する」 佐藤悦弘

◎「上野公園のホームレス」 西島雅博

茨城県

「無言の絆」 上野 達

◎「吉右衛門の思い出」 寅次郎

◎「母の通信教育」 田中 修

栃木県

◎「どうする、私!？」 たこみ

◎「バイク修理」 村 隆

◎「マンガーの実のなる村で」 中西淳子

「子ども以上、大人未満」 清沢薫

◎「暗然たる世界に差し込む一筋の光」 木下ゆかり

◎「いいよ」 武藤蓑子

神奈川県

◎「褐色の世界 ベルベル人」 松原泰子

◎「小児科医の願い」 秋谷 進

◎「タンゴの魂、それは私の人生」 小原みなみ

◎「父と競馬」 次女

◎「十度目の夏」 香山マリエ

「人、それぞれの価値観」 先斗政彦

◎「野球少年だった私の一番の試合」 福井雅人

◎「人生の同志」 風早 爽

◎「絶望から希望へ」 小倉一純

◎「私のものがたり」 相澤真理子

◎「軍国少年」の遺言」 ゴルビー長田

◎「きょうだいトップの長女の役割」 横井純子

◎「夢電話」 山田じゅんた

新潟県

◎「旅の終えどき」 渡 遊人

◎「怪物と拉致」 松波丞

富山県

◎「褒め上手」 有澤かおり

◎「別れの悲しみ」 森田麗実

◎「愛生傳命」 ゆきまさこ

石川県

◎「GUTAI」展と抽象画の楽しさ」 酒井恵三

◎「二足の草鞋を履く二刀流」 医学編一」 剣 眞

◎「鎌打ち神事から始まる」 明石弘貴

福井県

◎「あっちゃん、前を向いてーばあば奮戦記」 つだせつ

◎「意外なメッセージ」 近藤幹夫

山梨県

「課長って何 係長って何」 田中浩司

◎「戦争を語る父の目に涙が」 ふきのとう

◎「似非川柳も二〇〇〇柳」 佐高源

長野県

◎「父の行方」 高澤弘至

◎「Gちゃんの小指」 渡辺 勝

◎「背中への格調」 山家衛良

◎「叔母を悼む」 澤井樹生

岐阜県

◎「障害がもたらす家族の絆」 いっちゃん

◎「癌によりそう花ことば」 伊藤フサ子

◎「群馬県」 村松佐保

◎「孤高ー亡き師を偲ぶー」 宮下博吉

◎「戦争が遺した日本」 鈴木信一

◎「雑感、または思い出出す事」 丹波蔵堂

◎「元新卒の逃走」 三日月李衣

◎「令和は身軽であれ」 小笠原 亨

◎「母の贈り物」 茅沼

◎「取捨選択の話」 伊手人首麻呂

◎「おーい、元氣かい」 馬場岩ひろし

◎「山の師匠」 平野靖雄

◎「千葉県」 白いねずみ

◎「時代おくれ」に目覚める」 横山典子

◎「ママ、ありがとう」 藤安珠園

◎「かつては手話通訳者が要約筆記をしていた」 牧 康子

◎「カナリア」 牧 康子

◎「東京都」 牧 康子

◎「マンシヨンの大規模修繕が終わって」 比留間 進

◎「風の盆」 高尾周一

◎「輪っかぽっぽ」 青海光

◎「夜道」 九条之子

◎「愛のカタチ」 藤澤大地

◎「浮気がバレそう」 光希

◎「闘病に感謝」 小室澄江

◎「レーゾンデートルと使命」 河上美智子

◎「小さい祥ちゃんは社長さん」 黒岡 實

◎「生死をさ迷った、あの頃」 中澤真央

◎「者差し」 紫 陽花

◎「冬の終わり、春の始まり」 野宮健司

◎「今、このときをありがとう」 伊門 朔

◎「東海道および北陸新幹線の思い出」 所 太朗

◎「コキ」 姉齒浩一

◎「初老の電車男の懺悔」 川崎雄司

◎「毛がに」 竹中水前

◎「眼、あるいは光について」 崔宜業

◎「カタファイの国のヌエジ」 植田郁子

◎「古代・洛東江の畔」 谷垣官長

◎「薫ちゃんに捧ぐ」 津森悠平

◎「手紙」 星ヶ丘七恵

◎「大阪府」 森崎律子

◎「迂回して、秋」 そらかどましろ

◎「家族と推し活」 津森悠平

◎「いのちの燈火」 田中美晴

◎「ヒトリ生きるカナシ」 湯浅ひとし

◎「誰のマジック」 高杉晋太郎

◎「食べることで考えること」 永井日菜

◎「食」 今井清賀

◎「ダイエットじゃなくてサバイバル」 藤野瑠子

◎「適切な夢」 吉原あやこ

◎「ボンデギな夜」 山田まさ子

◎「ケーキー切れの悲しみ」 歳空

◎「双眼鏡」 丸山 史

◎「わたしが統一教会に通っていた頃」 名嘉山レイ

◎「エミリーの慧眼」 三木亮介

◎「母と娘」 よまひこ

◎「どん底の刻」 秋庭岩男

◎「兵庫県」 山田菜里

◎「神の地に人の道あり」 太田 悠

◎「訛りと方言、丸出しで」 山田菜里

◎「家族について」 山田菜里

- 「十八歳二ヶ月の苦惱」Samon
- 「団塊の世代からいたたくエナジ
- 1」 森田 真
- 「ねじれの位置からいろいろ想像
- してみた」 ふじもとなおこ
- 「イヤホンが便所に流れた時の
- 話」 白田イルマ
- 「墓をさがす」 高木敏克
- 奈良県
- 「黒い木」 中牟田智子
- 島根県
- 「被災地での約束」 桜さく
- 岡山県
- 「すて塩」 家森澄子
- 「冬の日に」 佐藤光基
- 広島県
- 「彼の故郷に私はいない」坂本崇
- 「私の食欲」 石橋いづみ
- 山口県
- 「君と交わすパラダイムシフトの
- 話し」 晴野康史
- 徳島県
- 「トンネルの向う」 虎姫
- 「芸術の世界」 佐田真紀
- 「ジャンケンで」 熊谷和代
- 香川県
- 「私たちの春」 高島 隼
- 「顔のない音楽の時代」中川 隼
- 愛媛県
- 「ばるふいー」 比戸 圭
- 「ふうちゃんとお重桜」水野英子
- 福岡県
- 「最後の日々」の夫の言葉、そし
- て私は」 田浦チサ子
- 「喪失したもの」 西尾 吉
- 「絶対支持率」 柳沢河童
- 「母と娘と、そして私」武中 彩
- 「神の石」 岡 大吉
- 「僕の先生」 安部としき
- 「古からのメッセージ」 三原みやび
- 「小さな握りこぶし」 はるひ
- 「ロシアのプーチンを咎める」 下村成昭
- 「私の好きな深蒸し茶をどうぞ」 山野冬花
- 長崎県
- 「最後の面会」 福田哲也
- 「地図が読めない女」 並樹澄空
- 宮城県
- 「ふたりの最終章」 中武 寛
- 「懺悔しました」 こもだ 一郎



エッセイ賞応募者の皆様へ 第一次・第二次・第三次の選考基準について

●第18回「文芸思潮」エッセイ賞への御応募まことにありがとうございました。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に対して伝わる文章になっ

ておられるかどうかが最重要の基準点です。しかし書く姿勢も加味させていただきます。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次を通過しています。また逆に文章は整っていても、書く姿勢に曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありません。したがって、応募者全員が一次予選合格という

こともありません。また第二次予選は、その中でさらに強く何が感じられるもの、光るものを選びます。何が読み手の中に残っている作品ということになります。内容でもいいですし、文章でもいい、一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に拾い上げたくなくなるという、一つの魅力を持っているかどうかポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの人に読んでほしいくなるような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、だいたい雑誌に載っていてもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さら

にその上に選出される可能性もあります。今年第18回も三次予選通過者が多く、応募作品

全体の水準が上がっていることを実感しております。もっと詳しく御自分の作品への感想・批評が聞きになりたい方は、作品個別の「批評コメント」もご利用いただけます。どうぞ御希望をお送り下さい。

〔文芸思潮〕エッセイ賞選考委員会

広告承ります

文芸思潮の読者に 文学愛好者に
知らせたい情報を掲載します

広告掲載料 文芸思潮●発行部数 1000 部

1P	2万5000円	
1 / 2P	1万5000円	
1 / 4P	8000円	1 / 6P 5000円
表4カラー	12万円	
表2・表4	8万円	

その他御相談に応じます。ご連絡ください。

文芸思潮広告部 ☎ 03-5706-7847 mail: bungeisc@asiawave.co.jp

小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

小説の書き方

——作家を志す人のために——

五十嵐 勉

税込1000円 御注文はアジア文化社まで